

4. 職員研修

(1) 平成21年度公立大学協会図書館協議会研修会（和歌山県立医科大学・奈良県立医科大学）

- ① 主催 公立大学協会図書館協議会
- ② 担当 和歌山県立医科大学・奈良県立医科大学（近畿地区）
- ③ 趣旨 大学図書館の当面する諸問題について研修を行い、図書館職員の知識・能力の向上を図る。
- ④ 日時 平成21年8月21日（金）
- ⑤ 会場 大阪市立大学学術情報総合センター 9F 情報処理センター
- ⑥ テーマ 「ホームページ講習会」－基本的な仕組み・成り立ちを理解しよう－
- ⑦ 参加 22大学28名
- ⑧ 日程 講義 「ホームページ作成講座 HTML 入門」
NPO 法人 よみかきパソコン 青木 俊幸氏
実習（1）HTML タグの基本と文字の装飾
NPO 法人 よみかきパソコン 青木 俊幸氏
実習（2）画像の利用とリンクの作成
NPO 法人 よみかきパソコン 青木 俊幸氏
実習（3）表の作成
NPO 法人 よみかきパソコン 青木 俊幸氏
- ⑨ 報告 研修会の内容をとりまとめ、公立大学協会図書館協議会ホームページに掲載
- ⑩ 研修会決算報告

収入	研修会予算	250,000円
	合計	250,000円
支出	講師人件費	94,500円
	講師旅費	23,040円
	講師昼食代	7,000円
	講師お茶代	2,100円
	講座企画代	63,000円
	テキスト代	44,100円
	合計	233,740円
残高	(返金額)	16,260円

(2) 大学図書館職員長期研修

- ① 主催 国立大学法人筑波大学
- ② 日時 平成 21 年 7 月 6 日 (月) ～7 月 17 日 (金)
- ③ 会場 筑波大学春日地区情報メディアユニオン 2 階ホール
- ④ 受講者 国立ならびに大学共同利用機関法人国立大学 31 名、公立大学 1 名、私立大学 3 名 計 35 名
- ⑤ 研修報告

平成 21 年度 大学図書館職員長期研修参加報告

兵庫県立大学事務局 学務部 学術総合情報・応用情報課 松林 史

<はじめに>

平成 21 年度 (第 41 期) 大学図書館職員長期研修は、平成 21 年 7 月 6 日～17 日に筑波大学春日地区情報メディアユニオンを主会場として開催された。今年度は全国から 35 名 (男性 12 名 女性 23 名) が参加した。

ここでは、印象に残ったいくつかの講義と、問題発見・解決演習および班別討議について述べる。

<図書館マネジメント総論>

「経営学入門」：顧客を満足させるためには期待されたサービス以上のサービスを提供する必要がある、そのためには顧客が現状に満足しているかだけでなく、潜在的な要求を掘り起こすことが重要である。大学図書館も同様であり、図書館だけではなく、大学内外の大学に関する種々の動きをより広く知る必要がある。

「大学経営の課題」：マネジメントの基本は「人」である。従来、大学は企業より、人 (特に職員) を大切にしない傾向にあったが、変革期を迎え、教学・経営の両面でマネジメントを定着させ、それを担う職員を育てるとともに、大学や学部自らが学問と社会の未来を洞察し、その使命と個性を確立することを求められている。

大学図書館職員として、図書館業務のプロであることはもちろんだが、社会の中で大学の置かれている状況や大学の進もうとしている方向、学術情報流通の状況、利用者の潜在的な要求を観察し、職務に活かしていくことが求められていることを痛感した。

<学術情報流通等各論>

「オープンアクセスと機関リポジトリ」：学術情報が学術雑誌論文・学術図書を基本とするのに対し、日本における機関リポジトリの登録コンテンツは紀要論文が半数以上の件数を占めており、目的と方向性が不明確なままとなっている。機関リポジトリを設置してない本学では、今後、学内で機関リポジトリを設置するかどうかの議論からはじめていかなければならないが、先行事例を参考にしたい。

「電子図書館マネジメント」：従来から日本の図書館のホームページは館 (やかた) の情報 (開館日カレンダーやお知らせなど) の占める割合が大きかったが、Web ページが利用者にとって組織のイメージに直結しているため、図書館 Web ページの充実が重要となっている。図書館システムをクラウド・コンピューティング化することによって、ハードウェア管理の負担から解放されるという講

義内容は、次期のシステム更新の際の参考にしたいと思った。

「公共図書館の戦略」:「自己判断自己責任」型社会への移行は、情報収集手段としての図書館をアピールするチャンスである。つまり、利用者の求める情報を積極的に提供する図書館へということである。そのためには、OECD 国際学習到達度調査で連続 3 回総合 1 位のフィンランドのような国家レベルでの図書館政策が必要であり、日本でも昨年図書館法改正された。図書館で情報を得るという訓練を受けてきた学生からの大学図書館へのニーズはより多様で高度なものとなるであろう。

<演習・班別討議>

1 週目の「問題発見・解決演習」では、コンサルティング会社から派遣されたプロ講師による、問題発見と解決のスキルに関する講義と実習があった。事前に各自が提出していた「困りごと」を発表し、カード BS 法、KJ 法、マインドマップ法、ロジックツリー等を使って、「困りごと」の洗い出しと整理→問題発見→原因追求→解決策の洗い出しまでを 6 班に分かれて行った。ここで重要だったのは、「全員が参画する」ということだった。じっと黙っている人は、何もしていないのではなく、他のメンバーのやる気を削いでしまう負の力を持っているためである。「今年の解決策の特徴は、外部へ働きかけようという意識が強いことである。国立大学法人化のよい影響が出始めているのではないか。」との講評をいただいた。また、0:100 比較の 0 を選択しない（できそうにないから初めからやらないとあきらめない）ことが重要であるという忠告をいただいた。

2 週目の「班別討議」は 1 週目とは異なるメンバーの 6 班に分かれて、1 週目の演習で学んだ方法を使って、大学図書館経営及びマネジメントに関連するテーマについて討議し、解決策を発表し、講評を受けるというものである。私の所属した班は、国立情報学研究所、公立大学、私立大学という設置母体の異なるメンバーで構成されていたため、架空の大学を想定し、「目録業務についてアウトソーシング（業務委託）導入の検討を求められた」という問題に対して、業務マニュアルの作成、定期的なミーティングの開催等の業務改善による作業効率化によってコストダウンを図るという提案をおこなった。

<おわりに>

大学図書館長期研修は、研修の内容も充実しているが、国立・私立大学図書館で活躍している同じ年代の職員から刺激を受け、全国の大学図書館職員間でのネットワークを形成できるという副産物がある。今後も是非、公立大学協会図書館協議会としてこのような貴重な機会を与え続けていただきたいと思う。

最後になりましたが、この研修に参加する機会を与えてくださった、公立大学協会図書館協議会に心よりお礼申し上げます。また、研修期間中の業務をサポートしてくださった職場の皆様に感謝いたします。